



平成30年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月2日

上場会社名 株式会社ジョイフル本田 上場取引所 東
 コード番号 3191 URL <http://www.joyfulhonda.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 矢口 幸夫
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 吉原 悟郎 (TEL) 029(822)2215
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月2日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年6月期第1四半期の連結業績(平成29年6月21日～平成29年9月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第1四半期	36,778	△1.7	1,749	39.6	1,745	13.5	1,148	17.5
29年6月期第1四半期	37,409	△4.0	1,253	△25.2	1,538	△21.6	977	△23.4

(注) 包括利益 30年6月期第1四半期 1,160百万円(10.4%) 29年6月期第1四半期 1,051百万円(△14.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第1四半期	27.55	—
29年6月期第1四半期	18.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第1四半期	151,980	100,063	65.8
29年6月期	199,413	157,536	79.0

(参考) 自己資本 30年6月期第1四半期 100,063百万円 29年6月期 157,536百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0.00	—	32.00	32.00
30年6月期	—	—	—	—	—
30年6月期(予想)	—	24.00	—	24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

平成29年8月4日の「平成29年6月期決算短信」で公表した配当予想を修正しております。詳細につきましては平成29年11月2日公表の「配当方針の変更(中間配当の実施)及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 平成30年6月期の連結業績予想(平成29年6月21日～平成30年6月20日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	76,000	△1.5	3,720	5.3	3,940	△6.3	2,620	△5.2	68.63
通期	153,800	△0.7	7,970	7.8	8,540	6.5	5,590	△8.8	153.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年6月期1Q	51,612,880株	29年6月期	51,612,880株
② 期末自己株式数	30年6月期1Q	17,000,740株	29年6月期	700,740株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年6月期1Q	41,699,097株	29年6月期1Q	51,514,894株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態の分析	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府による経済政策や金融政策を背景に緩やかな回復基調が見られましたが、米国や欧州の政治情勢の不安定さや地政学的な不安の高まりなど、不確実性が増し、先行きについては不透明な状況が続いております。一方、雇用環境は引き続き改善傾向にあるものの、個人消費は低迷が続いており、経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

ホームセンター業界におきましても、業種、業態の垣根を越えた激しい販売競争にさらされ、苦戦が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、今後の経営環境として少子高齢化社会における顧客ライフスタイルの変化や、小売業界で進む事業再編の時流を再認識し、当第1四半期連結会計期間からムリ、ムダ、ムラを排除し生産性やコスト競争力を向上させ、更なる顧客価値創出に向けたリソースを確保するため、「変革元年」を基本テーマに「事業構造」・「マーチャндаイジング構造」・「組織構造」・「経費構造」の4つの分野の構造改革に取り組んでおります。

当第1四半期連結会計期間においては、

- ①「事業構造改革」では、成長分野であるリフォーム事業について、当社ホームセンター事業のエクステリア部門と連結子会社である株式会社スマイル本田を統合し、2017年6月21日より新たに株式会社ジョイフル本田リフォームとしてリフォーム事業を一体化した事業運営を開始しました。また出店について、ホームセンター千葉店を当社の中型店プロトタイプとしてリニューアルオープンするための建て替え工事を2017年5月より開始しました。
- ②「マーチャндаイジング構造改革」では、取引先政策の見直し、品揃えや価格政策、販売構成の見直し等、売場改革を推進しております。
- ③「組織構造改革」では、「エリア価値最大化」を図るため、事業部制を廃止し、エリアを統括する責任者を配置する等、本社と店舗が一体となった新しいエリアマネジメントを推進しております。また本社組織においては、商品部を3つに分け、各商品分野別の管理レベルの向上と専門性の追求を図っております。
- ④「経費構造改革」として、グループ共通機能の集中化・標準化の検討を開始しました。

また、当社グループを支える人財の活躍促進と企業風土改革を図るため、2017年8月より社内人材教育大学「ジョイフル本田カレッジ」を開校し、第1期30名から育成を開始しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期に比べ6億30百万円減少し、367億78百万円（同比1.7%減）となりました。また、営業利益は前年同四半期に比べ4億96百万円増加し、17億49百万円（同比39.6%増）、経常利益は前年同四半期に比べ2億7百万円増加し、17億45百万円（同比13.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期に比べ1億70百万円増加し、11億48百万円（同比17.5%増）となりました。

なお、当社グループの当第1四半期連結累計期間のセグメント別業績は、以下のとおりとなっております。

ホームセンター事業

ホームセンター事業は、全体としては2017年5月16日から行っている千葉店の仮設営業による大幅な売場縮小や千代田店におけるJOYFUL-2閉鎖とテナントゾーン再編の影響等から、前年対比では売上高が減少しました。前述のとおり異業種との激しい競争にさらされ、インバウンド需要も落ち着いた生活雑貨部門や、当第1四半期前半の長い雨天、暑さの落ち着きなどが影響したガーデン部門や住宅インテリア部門等、季節性の高い商品群が苦戦しました。また、前年は台風被害の需要で売上が伸びた住宅資材・DIY部門も反動により売上高が減少したほか、ハイブリッド車などの低燃費車の普及や価格競争が激化したガソリン・灯油部門、前述のとおり1店舗を閉鎖したアート・クラフト部門でも売上高が減少しました。一方で差別性の高いアグリライフ部門や販売促進や品揃え拡大に注力したペット部門等が好調でありました。

結果として、ホームセンター事業全体の売上高は、前年同四半期に比べ6億32百万円減少し、363億29百万円（同比1.7%減）となりました。

セグメント別の業績を部門別に示すと、次のとおりであります。

(主要商品部門別の状況)

①「住まい」に関する分野

(a) 住宅資材・DIY

防犯対策用のセンサーライト等、セキュリティー商品の販売が好調でありましたが、前年の台風による補修需要の反動があり、屋根材などの建築資材や、レインウェア、長靴等の作業服のカテゴリを中心に販売が減少しました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ62百万円減少し、48億5百万円(同比1.3%減)となりました。

(b) 住宅インテリア

新たにホームセンター幸手店で開設した仏壇売場が好調に推移した等、収納カテゴリの販売は好調だったものの、カーテンや夏物家電品の落ち込み等の影響が大きく、結果として、売上高は、前年同四半期に比べ13百万円減少し、20億35百万円(同比0.7%減)となりました。

(c) ガーデンライフ

花苗や秋植え球根類の販売が好調だったほか、肥料用土類、害虫対策商品の販売も好調に推移しましたが、9月の台風の影響もあり、結果として、売上高は、前年同四半期に比べ31百万円減少し、15億14百万円(同比2.0%減)となりました。

(d) アグリライフ

前年と比較し農業用ハウス資材等の販売は下落しましたが、除草機、草刈り機などの機械類や秋撒き種子、散水用品などの販売が拡大しました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ56百万円増加し、24億0百万円(同比2.4%増)となりました。

(e) リフォーム

当期より株式会社ジョイフル本田で運営していたエクステリア事業と連結子会社である株式会社スマイル本田で運営していた内装リフォーム事業を統合し、新たに株式会社ジョイフル本田リフォームとして事業運営を開始いたしました。同事業では前半の天候不順の影響による外構工事の順延がありましたが、9月になりエクステリア、インテリア工事中心に売上高が回復し、結果として、売上高は、前年同四半期に比べ30百万円増加し、40億65百万円(同比0.7%増)となりました。

なお、前年同四半期との比較において、前年同四半期の(d)アグリライフ部門に含まれていた千葉店のガーデンにかかる売上高14百万円については、前年同四半期の(d)アグリライフ部門の売上高から除いております。この売上高14百万円と主要商品部門ではないため開示していなかった新田店のボタニックガーデンにかかる前年同四半期の売上高1百万円については、(c)ガーデンライフ部門の前年同四半期の売上高としております。また、前年同四半期の(e)エクステリア部門の売上高12億22百万円については、事業統合に伴い、(f)リフォーム部門の前年同四半期の売上高としております。

②「生活」に関する分野

(a) 生活雑貨

2017年6月1日の酒税法改正の影響により、酒では値上げを行ったビールの売上高減少がありましたが焼酎やウィスキー類、ギフト類の売上高が拡大したほか、日用品では洗濯洗剤等のイベント効果で売上高が拡大しました。しかしながらインバウンド需要の落ち着きからステンレスボトルなどの雑貨品目で売上高が減少しました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ4億72百万円減少し、140億60百万円(同比3.3%減)となりました。

(b) ガソリン・灯油

ガソリンはハイブリッド車などの低燃費車の普及や、価格競争の厳しさから販売量が伸び悩み、販売額が落ち込みました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ1億47百万円減少し、25億27百万円（同比5.5%減）となりました。

(c) ペット

販売促進効果から客数が改善し犬猫のフードやおやつ類、季節用品を中心に売上高を伸ばしたほか、鳥類や爬虫類などの小動物の生体では客数、客単価とも向上しました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ1億59百万円増加し、23億73百万円（同比7.2%増）となりました。

(d) アート・クラフト、ホームセンター周辺部門

ステーショナリー、アート商品等の伸び悩みや千代田店のテナントゾーン再編によりJOYFUL-2を2017年2月12日に閉店し、当セグメントでは前年と比べ1店舗減少しました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ1億55百万円減少し、20億50百万円（同比7.0%減）となりました。

(e) 車検・整備・タイヤ部門

タイヤの販売数や価格下落が響きましたが、前期に行った出店による売上高拡大等があり、結果として、売上高は、前年同四半期に比べ15百万円増加し、2億77百万円（同比6.1%増）となりました。

なお、前年同四半期との比較において、前年同四半期の(a)生活雑貨部門に含まれていた千葉店のペットにかかる売上高25百万円については、前年同四半期の(a)生活雑貨部門の売上高から除いております。この売上高25百万円は、(c)ペット部門の前年同四半期の売上高としております。

その他

その他の事業では、スポーツクラブの運営等を行っております。オリンピック開催に伴うスポーツや健康志向の高まりから会費収入が増加しました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ2百万円増加し、4億49百万円（同比0.5%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

資産は、前連結会計年度末に比べ474億33百万円減少し、1,519億80百万円となりました。これは主として、現金及び預金の減少469億92百万円およびたな卸資産の増加9億4百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ100億39百万円増加し、519億17百万円となりました。これは主として、短期借入金の増加100億円および買掛金の増加12億87百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ574億72百万円減少し、1,000億63百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益11億48百万円の計上および配当金の支払い16億32百万円、自己株式の取得570億1百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年8月4日の「平成29年6月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年6月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年9月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	69,283	22,291
売掛金	2,580	2,656
たな卸資産	16,377	17,282
その他	2,035	1,812
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	90,276	44,041
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	76,222	75,962
機械装置及び運搬具	1,623	1,627
土地	61,129	61,187
その他	6,162	6,243
減価償却累計額	△50,680	△50,886
有形固定資産合計	94,457	94,135
無形固定資産		
無形固定資産	1,850	1,829
投資その他の資産		
投資有価証券	6,994	7,529
関係会社株式	1,035	1,072
繰延税金資産	1,867	1,825
その他	2,935	1,546
貸倒引当金	△3	—
投資その他の資産合計	12,829	11,974
固定資産合計	109,137	107,939
資産合計	199,413	151,980

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年6月20日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年9月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,974	9,261
短期借入金	40	10,040
1年内返済予定の長期借入金	1,662	1,662
未払法人税等	1,298	577
賞与引当金	231	792
役員賞与引当金	31	41
役員退職慰労引当金	90	—
その他	7,246	6,516
流動負債合計	18,574	28,892
固定負債		
長期借入金	14,105	13,689
退職給付に係る負債	2,525	2,552
資産除去債務	1,869	1,874
長期預り保証金	4,225	4,378
その他	577	530
固定負債合計	23,302	23,025
負債合計	41,877	51,917
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,000	12,000
資本剰余金	12,503	12,503
利益剰余金	133,657	133,174
自己株式	△1,795	△58,796
株主資本合計	156,366	98,881
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,119	1,144
退職給付に係る調整累計額	50	38
その他の包括利益累計額合計	1,170	1,182
純資産合計	157,536	100,063
負債純資産合計	199,413	151,980

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月21日 至平成28年9月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年6月21日 至平成29年9月20日)
売上高	37,409	36,778
売上原価	27,744	26,856
売上総利益	9,664	9,922
営業収入		
不動産賃貸収入	956	999
サービス料等収入	161	166
保険代理店手数料	11	18
営業収入合計	1,129	1,183
営業総利益	10,793	11,106
販売費及び一般管理費	9,540	9,356
営業利益	1,253	1,749
営業外収益		
受取利息	0	11
受取配当金	12	9
持分法による投資利益	37	36
技術指導料	48	15
受取手数料	104	104
その他	86	89
営業外収益合計	290	266
営業外費用		
支払利息	0	10
支払手数料	0	259
その他	3	0
営業外費用合計	4	270
経常利益	1,538	1,745
特別利益		
固定資産売却益	—	22
特別利益合計	—	22
特別損失		
固定資産除却損	76	78
その他	0	0
特別損失合計	76	78
税金等調整前四半期純利益	1,461	1,690
法人税、住民税及び事業税	624	590
法人税等調整額	△140	△49
法人税等合計	483	541
四半期純利益	977	1,148
親会社株主に帰属する四半期純利益	977	1,148

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年6月21日 至平成28年9月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年6月21日 至平成29年9月20日)
四半期純利益	977	1,148
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31	25
退職給付に係る調整額	42	△12
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	73	12
四半期包括利益	1,051	1,160
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,051	1,160

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

自己株式の取得

当社は、平成29年6月8日開催の取締役会決議に基づき、平成29年7月31日をもって自己株式16,300,000株を57,001百万円で取得しました。この影響により、当第1四半期連結会計期間末における自己株式は17,000,740株、58,796百万円となりました。

(セグメント情報等)

1 前第1四半期連結累計期間(自平成28年6月21日 至 平成28年9月20日)

①報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	ホームセンター事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	36,962	36,962	446	37,409
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7	7	0	7
計	36,969	36,969	447	37,416
セグメント利益	1,119	1,119	133	1,252

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツクラブ事業を含んでおります。

②報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,119
「その他」の区分の利益	133
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	1,253

③報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

2 当第1四半期連結累計期間(自平成29年6月21日 至平成29年9月20日)

①報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	ホームセンター事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	36,329	36,329	449	36,778
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3	3	0	3
計	36,332	36,332	449	36,782
セグメント利益	1,614	1,614	134	1,749

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツクラブ事業を含んでおります。

②報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,614
「その他」の区分の利益	134
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	1,749

③報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。